転記ミスや、リース期限の見逃し……

経理の「あるある」を解消するkintoneという選択肢

**紙の帳票からシステムへの転記など、煩雑な業務にうんざりしていませんか？
そんな経理の悩みを解決するための視点と
効率化を実現できる有用なツールを紹介します。**



仕訳や決算などの経理業務は、会計システムのおかげで劇的に効率化されました。

一方で、領収書の処理ひとつとっても、最近は紙で届くもの、PDFデータで届くもの、スマホで撮った写真で届くものと、形式がバラバラです。

また、承認された経費のデータをシステムに転記する際、数字を間違って入力したり、既に処理済みのものを二重に打ち込んだりするミスが起こりがちです。それを防ぐための確認にかえって手間が増えていないでしょうか。

さらに、税務や会計の知識が求められ、毎年の税制改正にも対応しなければならないなど、経理は専門性が高い仕事です。

それだけに特定の人が持つスキルに頼り切りになりやすく、担当業務の属人化につながる、という問題を生みます。中小企業で前任者が一人経理だった場合などはなおさらです。

前任者がしまい込んだ資料が整理されていなくて見つからない、イレギュラーな処理がなぜ存在するのかわからないなど、属人化による困った経験をたいていの経理担当者はしているでしょう。



サイボウズ株式会社 営業本部
アライアンスビジネス開発部 山本 靖之

Excelによる属人化した台帳管理からの脱却

経理部門の課題解決について詳しい、サイボウズ株式会社の山本靖之さんは、ツールを使った情報の一元化を勧めます。

「経理業務をラクにするには、まず、あちこちに散らばっている情報をみんなが見える場所にまとめ、最新のものが常にどこにあるかをはっきりさせることです」

たとえば、中小企業ではリース資産を個人がつくったExcelの台帳で管理しているケースが多いと思われます。Excelの台帳はえてして担当者個人のPCに保存されバージョン管理ができていない、つくった本人しかわからないマクロが後任者にうまく引き継げない、といった問題が生じてしまいます。

そうした悩みを解決するツールとして最適なのがkintone（キントーン）です。

キントーンは、AIとノーコード（必要な項目をドラッグ&ドロップで追加する簡単な方法）で業務に必要なアプリを作成できます。台帳管理や申請処理、進捗の共有など、さまざまな業務に活用できます。仕訳や決算は会計システムの仕事ですが、その周辺にある「Excel・紙・メールで何とかしている業務」を一手に引き受けるのがキントーンの役割です。

身近な例として、リース資産の管理を考えてみましょう。Excelデータを簡単に取り込めるので、管理台帳をキントーンのアプリに置き換えることができます。最新版を複数人で共有でき、契約書も紐づけて管理できます。

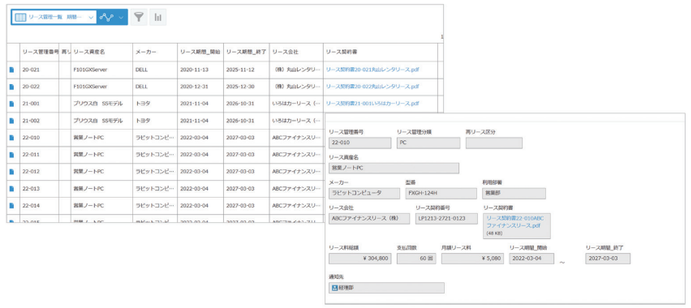
加えて、リース満了期限日のデータをもとに、「30日前」などのタイミングで担当者に通知を送ることもできます。更新が来るタイミングを失念し、リース会社からの契約更新についての通知にあわてて再リースか入れ替えかの指示をあおぐ、などという事態も防げます。

●kintone（キントーン）とは

AIとノーコード（ドラッグ&ドロップ）で業務アプリを開発できるプラットフォーム



●台帳管理の利用例：リース管理台帳



また、閲覧・編集権限が設定できるので、知らない間にデータを修正されてしまう、といった心配もありません。

承認待ち・書類不備をなくすワークフロー機能

「経理業務をラクにするもうひとつのポイントが、ワークフロー機能を使った業務プロセスの改善です」（山本さん）

経理の仕事を渋滞させる要因のひとつが、処理を進めるための情報がなかなか揃わないことです。予算の申請に対する上司の承認が遅れたり、経費精算に必要な領収書が提出されなかったりといったことがよく起こります。これらに対応するためのやりとりは、かなりのストレスになります。

その課題への有効な対策が、申請から承認、処理までのワークフローを標準化することです。

キントーンでは、申請→上長承認→経理確認といったステップを設定し、各段階の担当者が処理しないと次に進めない仕組みをつくれます。備品購入の申請・承認であれば、上長が承認しない限り購入に進めないフローにでき、今どの申請がどこで止まっているかも一覧で把握できます。さらに、スマホやPCからいつでも承認できるので、上司の不在で申請が滞留する、といった問題も解消できます。

新規取引先の口座開設や与信枠の設定・申請といった業務にも、ワークフロー機能はぴったりです。

また、売掛金回収のプロセスをアプリにまとめれば、取引先ごとの回収状況を一覧で共有でき、遅れがちな取引先にはリマインダーで担当者にアプローチを促すこともできます。

あわせて、社内からの経理への問い合わせを管理するアプリをつくれば、「こんなものを買いたいが費用として申請できるか」「この会合への出席は交際費か」といったよくある質問をまとめてFAQにすることも可能です。問い合わせる側は過去の回答を参照でき、経理側は同じ質問への対応を繰り返す手間が減ります。

このようにさまざまな業務の効率化が可能なキントーンですが、その機能はここで紹介した台帳管理やワークフローに留まりません。会計システムとの連携や、AIを活用した業務サポートなど、さらに活用の幅を広げることもできます。

「ITが苦手で、できるか不安という声もよくいただきますが、すぐに使えるアプリのひな型も豊富に用意しています。まずはそこから試してみてほしいですね」（山本さん）

身近な日常業務の効率化から始めてみませんか。

経理担当者向け
kintoneで変わる経理業務セミナー〈基本編〉

主催：サイボウズ株式会社

毎月の転記、承認待ち、属人化……

kintoneで課題を解決した 経理の現場



**毎月のExcel転記や紙の処理を「仕方ない」と思っていませんか？
今回は、そんな作業をAIとノーコードで業務アプリを作成できる
「キントーン」で改善した2社の事例を紹介します。**

申請書の承認がつい後回しになっていた、処理に必要な帳票が月末にまとめて届く……経理担当者なら、こんな苦労を経験したことが一度はあるでしょう。

そうした経理現場の課題解決にかかわってきたサイボウズ株式会社の山本靖之さんに、kintone（キントーン）を活用した課題解決の実践例を紹介してもらいました。

ケース1 取引先登録を手入力なしで完結

花き関連業のA社（従業員330名）では、本社と関西支店のほか、全国に15店舗ほどの小売店を展開しています。催事の装花事業から小売まで幅広いビジネスを手がけており、それに伴って発生する新規取引先のマスター登録がかなりの手間になっていたそうです。

毎月50件ほど発生する新規取引先をマスター登録するには、まず営業担当者がExcelの申請書を作成し、その情報をもとに経理担当者が転記する必要がありました。

Excelデータで申請書が回ってくるのは一見、電子化されているように見えますが、毎回ダウンロードしてデータを開き、確認するのは結構な手間でした。



サイボウズ株式会社 営業本部
アライアンスビジネス開発部
山本 靖之

そこで、経理担当者がキントーンでマスター登録の申請アプリを作成しました。営業担当者が画面上でデータを入力すれば、取引先コードが自動で付番され、上司の承認と経理の確認を経てマスター登録が完結します。Excelの作成やダウンロード、データの転記も不要になりました。

さらに、自動付番した取引先データを基幹システムにそのまま取り込めるようにすることで、経理の手間は激減しました。

これらのアプリの開発は、プログラミングの知識がなくとも、1人で1か月で実現できたそうです。

一方、Excelの申請書を作成する負担が減った営業も、登録作業を月末までため込まずに進めるようになり、他にもこういう使い方はできないか、というアイデアまで出てくるようになったそうです。

そのひとつが、個別請求書の管理です。請求書の発行は原則として基幹システムを介して行なっていますが、金額が確定しているなら請求書が届かなくとも早めに支払ってしまいたい、というような顧客もいます。

そこで顧客のイレギュラーな要請に対応する個別請求書の発行・管理アプリを作成し、担当者間での請求書を「送った」「送ってない」のやりとりをなくしました。

ケース1 新規取引先の登録がアプリへの入力で完了、転記が不要に

Before Excelで申請書を作り、経理が内容を確認して基幹システムに手入力



After アプリへの入力で申請完了。承認後、経理は内容を確認しデータを読み込むだけ



「このようにして、現場の悩みを解決するアプリを経理担当者が次々に開発できます。ひとつの業務から始めて、活用の幅を広げられるのがキントーンの特徴です」（山本さん）

ケース2 物品購入申請の転記作業がゼロに

製造業のB社（従業員150名）では、部門担当者が消耗品の購入申請をするとき、Excelで注文書を作成する必要がありました。

経理では、上司の承認を受けた物品購入申請をもとに、納品予定をExcelに転記していました。納品後は、届いた納品書とExcelデータを突き合わせて内容を確認し、基幹システムに仕訳伝票を入力します。こうした作業が月に200件は発生しており、その負担は大きなものでした。

また、誰が何を発注したのか、いつ納品されるかの予定を経理しか把握しておらず、在庫がなくてもすぐに納品されるのを知らない部門担当者が同じものを発注してしまう、という無駄も生まれていました。

この課題の解決を図ろうと、部門担当者が物品購入情報を登録し、上司が承認すれば、その情報をもとに注文書を発行できる物品購入申請アプリを作成しました。

申請時に入力された情報がそのまま注文書に反映されるため、経理が改めて入力し直す必要がなくなりました。申請や承認の状況もアプリ上で確認できるので、紙の申請書のように書類がまぎれる心配もありません。さらに、発注履歴が全社で共有されるようになったことで、部門担当者やその上司が発注状況や入荷予定を確認してから発注できるようになり、発注漏れや二重発注も防げるようになりました。

加えて、注文した品が届いたときに納品書を複合機でスキャンしてアプリに保管すれば、AIがその内容を読み取って登録。担当者が金額を確認・入力して納品完了にすると、経理はボタンひとつで基幹システムに仕訳伝票を登録でき、ここでも入力の煩わしさから解放されました。

このアプリの開発はシステム導入にかかわったパートナー企業と二人三脚で、構想から実装まで半年で実現しました。その導入効果を実感し、今後は製造設備など高額なものの申請業務も置き換えていきたい、とのことです。

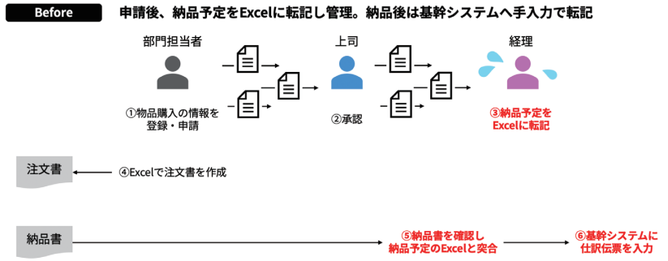
◆

「キントーンは経理の仕事を楽にするだけでなく、他部門の手間やミスも減らせます。使い始めると、そうした活用の幅が自然に広がっていくでしょう」と山本さんはいいます。

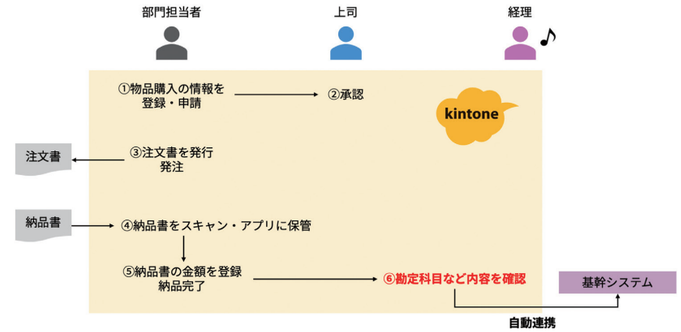
「仕方ない」と思っていた日々の業務から、まずは見直してみませんか。

ケース2 物品購入申請から仕訳連携まで、経理の入力作業がゼロに

Before 申請後、納品予定をExcelに転記し管理。納品後は基幹システムへ手入力で転記



After 申請・注文書発行から仕訳連携まで、経理の手作業が大幅削減



経理担当者向け
kintoneで変わる経理業務セミナー〈基本編〉

主催：サイボウズ株式会社

ツール間の転記作業でもう困らない

kintoneで実感する 会計システムとのデータ連携



紙やExcelと、会計システム間の転記作業にお困りではありませんか？
会計システムとキントーンを連携させると、毎月の転記・集計作業が大幅に減るだけでなく、
リアルタイムで経営に関する数字を把握できるようになります。
経理業務がどう変わるのか、具体的な活用方法を紹介します。



サイボウズ株式会社 営業本部
アライアンスビジネス開発部
山本 靖之

経理担当者が悩む、転記や確認といった日常的な仕事の手間。これを減らすには、一度入力したデータが会計システムに反映される連携の仕組みをつくることが有効です。

AIとノーコードで業務アプリをつくれるkintone（キントーン）なら、奉行クラウドやPCAクラウドといった会計システムと簡単に連携できます。

連携するとどんな業務改善効果が得られるのか、経理現場の課題解決に多くかかわってきたサイボウズ株式会社の山本靖之さんに教えてもらいました。

連携のスタートは身近な交通費精算から

たとえば出張が発生したとき、現地までの交通費や宿泊費、取引先との打ち合わせ時に使用した飲食費など、さまざまな経費が生じます。そうした経費の事務処理の煩雑さは、経理にとって大きな負担になっています。

最近は領収書や明細書の電子化が進み、経理は楽になると思われました。しかし、現場から集まった旅費交通費の申請内容を、経理が入力する手間はかかります。さらに、イレギュラーな領収書が提出されたときには、会社が支出してよいものとして決裁しているのかを、上司に確認する必要もあります。

キントーンの旅費交通費申請アプリでは、上司の承認が完了するまで精算処理へ進めない仕組みにできるので、確認漏れを防ぐことができます。

また、申請アプリを会計システムと連携させれば、承認後のデータが自動で会計システムに登録され、手入力の作業がゼロになります。アプリの項目に勘定科目を紐づけておけば、その都度、どの科目になるかの判断に悩む手間もなくなります。

「出張経費の仮払い精算の処理も滞りなく簡単に済ませられるようになります。現場からも喜ばれるでしょう」（山本さん）

取引先マスタとの連携で情報管理を一元化

取引先管理においては、新規取引先が決まるたびに、登録依頼がメールや紙でバラバラに経理へ集まってきます。届いた申請内容を確認しながら会計システムへ手入力する負担は、件数が増えるほど大きくなります。

「この取引先はすでに登録済みか」「社名の表記はどう統一するか」……。二重登録や表記の揺れがないかのチェックだけでも、相当な時間を取られるでしょう。

その点、キントーンで取引先登録申請アプリをつくり、会計システムと連携させれば、承認後のデータが自動でマスタ登録されます。経理部門での入力作業がなくなり、記入漏れによる差戻しの対応も不要です。営業担当者が取引先マスタ申請アプリのフォームに入力すれば、会計システムに紐づけて登録できるよう連携することにより、情報を一元化できます。取引先の担当者変更があっても転記の手間なく更新でき、直し漏れの心配がありません。

また、承認状況がアプリ上ですぐに確認できるので、紙やメールの申請書のように上司のところで止まってしまい処理が後回しになるような事態も防げます。

さらに、取引開始にあたって与信設定の上限を申請フォームの必須項目に設定しておけば、営業担当者への与信管理の意識づけにも役立ちます。

最新の実績をもとに予算との比較が可能に

加えて、キントーンと会計システムの連携が大きな効力を発揮するのが、予実管理での活用です。

これまで、経営会議の資料を作成するには実績データを会計システムからエクスポートし、Excelに貼り付けて集計・グラフ化するという煩雑な作業が必要でした。

分析のために経営者や営業の求めに応じて達成率や進捗状況をグラフ化する作業は負担が大きく、転記・集計のミスが分析の誤りにつながるリスクもありました。

会計システムとキントーンを連携させれば、データを移して集計・加工する作業なしに、リアルタイムで数字を比較・確認できます。グラフ化も手軽にできるので、経営会議の資料作成にかかる時間が大幅に減ります。会計システムの中の数字はこれまで経理部門からしか見られませんでしたが、予算管理アプリや実績管理アプリを通じて経営者や管理職もリアルタイムで確認できるようになります。

二つの連携から経理業務を変えていく

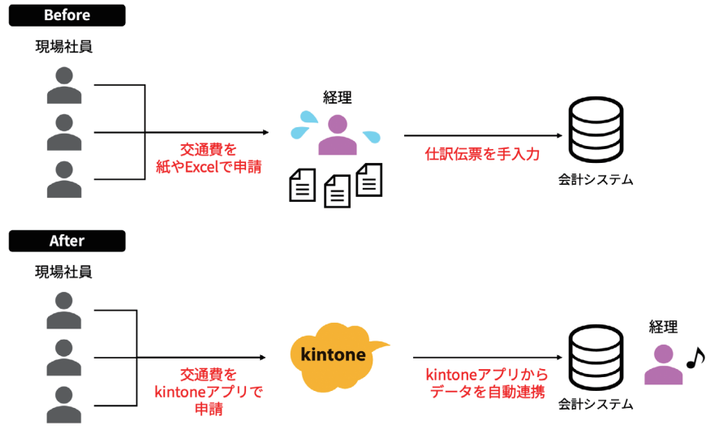
こうした便利な連携を進めるための社内の理解を得るには、経営トップに連携のメリットを実感してもらうのが一番、と山本さんはアドバイスします。

「経営判断のための進捗状況の把握など、最新の数字を便利に拾えることがわかると、もっと使ってみよう、となるものです」

会計システムとキントーンを連携させてデータが一元化されると、経営に関する数字をリアルタイムで把握できるだけでなく、蓄積されたデータをAIで分析するといった活用の幅も広がっていきます。申請業務の効率化からスタートし、予実管理へと連携の範囲を広げていくことで、経理業務全体を少しずつ変えていけます。

会計システムとキントーンをつなぐことが、経理業務を変える第一歩となります。まずは身近な一つの業務から連携を試してみませんか。

◉交通費申請のデータを会計システムへ連携



◉会計システムから実績データを連携

＼詳しく知りたい方はこちら／

経理担当者向け
kintoneで変わる 経理業務セミナー

主催：サイボウズ株式会社